

時間預託活動 (11月度)

	提供活動	コーディネーター	事務所当番	その他	当月計	年度計
時間数	40	0	0	21	61	501
人数	9	0	0	5		

奉仕活動 (11月度)

	福祉活動	子育て	ナルク活動	その他	当月計	年度計
時間数	0	0	56	0	56	197
人数	0	0	11	0		

読めますか？

兀々 屢々 然々 偶々 区々

云々 夫々 其々 態々 予々

こつこつ しばしば しかじか たまたま まちまち

うんぬん それぞれ それぞれ わざわざ かねがね

11月のウォーキング



「小紅の渡し」は、長良川を渡る岐阜市で唯一の渡し船で県道の一部になっています。

史実美に登場するのは元禄5年(1692年)で、川下の合渡橋渡しが中山道の表街道、小紅の渡しが裏街道として栄えました。

毎月21日の弘法さんの命日には、鏡島弘法の参詣客で賑わいます。

私たちも11月21日に、弘法さんに参詣し、舟遊びを楽しんできました。

新入会員のご紹介 (12月度)

飯島晴美様 岐阜市白木町

どうぞよろしく

公益社団法人
日本ユニセフ協会
赤松良子

くくどい全て、かる最場 うて達ケコ生に共続争 す。なをら日も
だもてに、にこ優にユと多がアロき一和い・例 状ちつれ常衛
させたま暮全しと先おニしく急を受感れの子はる・中貧年 況がながに施
い。ののりせの命、支れたは、最も弱たい 追今、めてきうに安
活動とす。会も格口活子ども差をが正し だ更なるたうじ苦し
を未。世界の礎をの安 援来をのを守り 支助をの守り 援助をの守り 助
る子築 安

アフリカの子ども達

認知症 (24)



レビー小体型認知症②

【あまり知られていない身近な病気】

【変動する症状】

従来アルツハイマー病などの認知症では、環境や身体の状態が変わらない限り、書状が日によって良くなったり悪くなったりすることはないとされてきました。しかし、レビー小体型認知症では、むしろ症状に大きな波があることが特徴とされています。

サービスへ出かける際には、認知症の存在を疑うほどしっかりしている方が、夕方明けってくる頃にはほとんど会話もできない、といったことがよくあります。

普通に家族と会話をしていた人が、次の瞬間には、家族がわからなくなる時があるのです。

一日の中で症状が変動することもあれば(通常昼間よりも夕方から夜中にかけて悪くなります)、「先月に比べて今月は調子が悪いね」、といった具合につく単位で変動することがあります。

【幻視】

レビー小体型認知症の一番の特徴は幻視(存在しないものが見えること)です。

幻視はレビー小体型認知症患者のおよそ70-80%に見られとされています。

幻視の内容は、人や動物、虫などがありありと鮮明に見えます。「男の人が部屋の隅から黙ってこちらを見ている」のようにその内容はとても具体的です。出典 池田学著「認知症」中公新書